(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3140601号
(U3140601)
(45)発行日　平成20年4月3日(2008.4.3)　(24)登録日　平成20年3月12日(2008.3.12)

(51)Int.Cl.　F I
A41D 25/02 (2006.01)　A41D 25/02　G

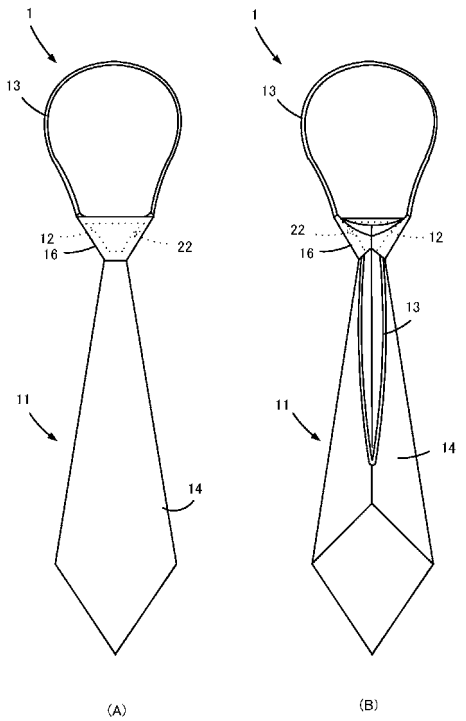
評価書の請求 未請求　請求項の数 2　ＯＬ　（全 9 頁）

(21)出願番号　実願2008-246(U2008-246)
(22)出願日　平成20年1月21日(2008.1.21)

(73)実用新案権者　508020937
ユン　ミョン　キ
ＹＯＯＮ　ＭＹＵＮＧ　ＧＩ
大韓民国　ソウル　マァポー　ク　サン　スー　ドン　１８３
１８３　ＳＡＮＧ　ＳＵ　ＤＯＮＧ　ＭＡＰＯ－ＫＵ　ＳＥＯＵＬ　ＫＯＲＥＡ
(74)代理人　100097216
弁理士　泉　和人
(72)考案者　ユン　ミョン　キ
大韓民国　ソウル　マァポー　ク　サン　スー　ドン　１８３

(54)【考案の名称】ネクタイ

(57)【要約】
【課題】　面倒なくネクタイを着脱できるとともに、ネクタイが自然で、また、結び目が固定されたネクタイを提供する。
【解決手段】　ネクタイ本体１１は、大剣１４の末端に、結び目１６を縫い付けたものである。締付具１２は、ネクタイ本体１１の結び目１６に対応する形状に加工された台であり、結び目１６内に収納される。ループ紐１３は、輪状の紐であり、締付具１２内に挿通して取り付けられる。ループ紐１３の長さは、操作部２２を押して、調整することができる。ループ紐１３を首に通し、襟元に巻き付け、ネクタイ本体１１の結び目１６の上から、締付具１２の操作部２２を押しながら、ループ紐１３の長さを調整するだけで、ネクタイ１を簡単に着脱できる。
【選択図】　図１



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
大剣およびその末端に設けられた結び目を有するネクタイ本体と、
輪状のループ紐と、
前記ネクタイ本体の結び目に対応する形状を有し、前記ループ紐を締め付ける機能を有する締付具とを有し、
前記ループ紐を挿通した締付具を、前記ネクタイ本体の結び目の中に収納したことを特徴とするネクタイ。
【請求項２】
前記締付具は、
ネクタイの結び目の形状を有する筐体と、
前記筐体から突出するように設けられた操作部と、
前記筐体に固定して設けられた支持部と、
前記操作部の天井と前記支持部との間に介装されたスプリングとからなり、
前記操作部を前記スプリングにより付勢し、前記操作部に設けられた開口と前記支持部との間で前記ループ紐を押さえることによって、前記ループ紐を締め付けることを特徴とする請求項１に記載のネクタイ。

【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本考案は、面倒なくネクタイを着脱できるとともに、結び目が崩れることがないようにしたネクタイに関する。
【背景技術】
【０００２】
一般的なネクタイは、装飾を目的とした帯状の布片で、ワイシャツ等の襟の下にネクタイを通して首にかけ、首元を見ながら結び、バランスや長さの調節を行って、左右の襟の間から見える結び目が綺麗になるように調節して、襟元を飾っている。ところが、ネクタイの結び方は、プレーンノットやウィンザーノット頭と呼ばれる独特の結び方であり、ネクタイの着用に慣れていない人にとっては、難しい結び方である。
【０００３】
そこで、例えば特許文献１に示されるように、結び目と、剣状垂体と、締め帯とを別々に作り、これらを接続組み合わせるようにし、締め帯を襟に巻き、ネクタイを押さえバネで固定するようにしたネクタイが提案されている。
【特許文献１】特開平６－２２８８０３号公報
【考案の開示】
【考案が解決しようとする課題】
【０００４】
ところが、特許文献１に示されるネクタイでは、締め帯を襟に巻き、ネクタイを押さえバネで固定しているため、部品点数が増加する。また、襟元の押さえバネを操作するのは大変であるとともに、締め帯を十分に締められず、ネクタイの付け方がだらしなくなりがちであるという問題がある。
【０００５】
上述の課題を鑑み、本考案は、面倒なくネクタイを着脱できるとともに、結び目が崩れることがないようにしたネクタイを提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
上述の課題を解決するために、本考案は、
大剣およびその末端に設けられた結び目を有するネクタイ本体と、輪状のループ紐と、ネクタイ本体の結び目に対応する形状を有し、ループ紐を締め付ける機能を有する締付具と

を有し、ループ紐を挿通した締付具を、ネクタイ本体の結び目の中に収納したことを特徴とするネクタイである。

【０００７】

好ましくは、締付具は、ネクタイの結び目の形状を有する筐体と、筐体から突出するように設けられた操作部と、筐体に固定して設けられた支持部と、操作部の天井と支持部との間に介装されたスプリングとからなり、操作部をスプリングにより付勢し、操作部に設けられた開口と支持部との間でループ紐を押さえることによって、ループ紐を締め付けることを特徴とする。

【考案の効果】

【０００８】

本考案によれば、大剣およびその末端に設けられた結び目を有するネクタイ本体と、輪状のループ紐と、ネクタイ本体の結び目に対応する形状を有し、ループ紐を締め付ける機能を有する締付具とを有し、ループ紐を挿通した締付具をネクタイ本体の結び目の中に収納しているので、ネクタイを簡単に着脱できる。また、締付具の上に、ネクタイの結び目が位置しているので、結び目の形が崩れない。また、ネクタイが襟元で十分に締め付けられ、ネクタイの付け方がだらしなくならない。また、ループ紐を襟元に巻き付けてネクタイを付けるため、ネクタイの大剣の部分は、通常のネクタイと同様に自然に垂れ下がり、その動きが自然である。

【０００９】

また、本考案によれば、締付具は、ネクタイの結び目の形状を有する筐体と、筐体から突出するように設けられた操作部と、筐体に固定して設けられた支持部と、操作部の天井と支持部との間に介装されたスプリングとからなり、操作部をスプリングにより付勢し、操作部に設けられた開口と支持部との間でループ紐を押さえることによって、ループ紐を締め付けるようにしている。このため、締付具の操作部を押しながら、ループ紐を引っ張って長さを調整し、締付具の操作部から指を離せば、その位置でループ紐が押さえられ、ネクタイが襟元で十分に締め付けられる。ネクタイを一度締め付けると、その後ネクタイが緩むことがないので、ネクタイの付け方がだらしなくならない。

【考案を実施するための最良の形態】

【００１０】

以下、本考案の実施の形態について図面を参照しながら説明する。図１（Ａ）および図１（Ｂ）は、それぞれ本考案の一実施形態のネクタイ１を示す正面図および背面図である。図１（Ａ）および図１（Ｂ）において、ネクタイ本体１１は、その先端に大剣１４を有し、その末端に結び目１６を縫い付けたものである。締付具１２は、ネクタイ本体１１の結び目１６に対応する形状を有し、結び目１６内に収納されている。また、この締付具１２は、ループ締め付け機能を有し、その側面に操作部２２を有している。ループ紐１３は、輪状の紐であり、締付具１２の操作部に設けられた開口２７と支持部２３との間に挿通される。ループ紐１３の首まわりの長さは、操作部２２を押して、調整することができる。

【００１１】

図２は、本考案の一実施形態のネクタイにおける締付具を示す図である。図２（Ａ）は、締付具１２の全体斜視図を示し、図２（Ｂ）は、締付具１２の正面図、図２（Ｃ）は、締付具１２の左側面図、図２（Ｄ）は、締付具１２の右側面図、図２（Ｅ）は、締付具１２の平面図、図２（Ｆ）は、締付具１２の背面図、図２（Ｇ）は、締付具１２の底面図を示す。締付具１２は、図２（Ａ）～図２（Ｇ）に示すように、正面から見た形状がそのネクタイの結び目の形状を有し、締付具１２の筐体２１の側板２９からは、操作部２２が突出するように設けられている。筐体２１および操作部２２の詳細な構造については、後述する。締付具１２の筐体２１の端部には、ループ挿通部２５が設けられる。筐体２１はその側板２９に開けられた開口３０に操作部２２が挿入され、この操作部２２の上端の押圧部２６を押すことによって、操作部２２が下げられ、操作部２２の両側壁１８に設けられた開口２７（２７ａ、２７ｂ）と支持部２３間に隙間ができる。この隙間にループ紐１３

を通し、ループ紐１３を引き出して、その後押圧部２６の押圧を止めると、ループ紐１３が操作部２２の天井１７と支持部２３との間に挟まれて締め付けられ、ネクタイ本体１１を固定できる。

【００１２】

図３は、本考案の一実施形態のネクタイにおける締付具の筐体を示す図である。図３（Ａ）は、筐体２１の全体斜視図を示し、図３（Ｂ）は、筐体２１の正面図、図３（Ｃ）は、筐体２１の左側面図、図３（Ｄ）は、筐体２１の右側面図、図３（Ｅ）は、筐体２１の平面図、図３（Ｆ）は、筐体２１の背面図、図３（Ｇ）は、筐体２１の底面図を示す。図３（Ａ）～図３（Ｇ）に示すように、側板２９の上面には開口３０が設けられ、この開口３０に操作部２２が挿入される。また、締付具１２の筐体２１の内部には、支持部２３が設けられ、図４に示す操作部２２の天井１７と支持部２３との間にスプリング２４が介装されている。支持部２３の上部中心にはスプリング２４がはずれるのを防止するために突起部２８設けてもよい。

【００１３】

図４は、本考案の一実施形態のネクタイにおける締付具の操作部を示す図である。図４（Ａ）は、操作部２２の全体を示す斜視図を示し、図４（Ｂ）は、操作部２２の正面図、図４（Ｃ）は、操作部２２の左側面図、図４（Ｄ）は、操作部２２の右側面図、図４（Ｅ）は、操作部２２の平面図、図４（Ｆ）は、操作部２２の背面図、図４（Ｇ）は、操作部２２の底面図を示す。図４（Ａ）～図４（Ｆ）に示すように、操作部２２の上面には押圧部２６が設けられている。操作部２２の両側壁１８ａ，１８ｂにはそれぞれ開口２７ａ，２７ｂが設けられている。この開口２７ａ，２７ｂは後述するように、ループ紐１３を挿通する開口である。また、押圧部２６の押圧部２６の下面には天井１７が設けられ、この天井１７と支持部２３との間にスプリング２４が挿入され、操作部２２を上方向に付勢している。

【００１４】

図５は、本考案の一実施形態のネクタイにおける締付具の操作部の動作を示す図である。図５において、操作部２２の天井１７と支持部２３との間に介装されるスプリング２４により、操作部２２は、矢印Ａ１方向に付勢される。このため、操作部２２に力を加えていないときには、図５（Ａ）に示すように、ループ挿通部２５の内部に位置する開口２７ａおよび２７ｂは、閉塞された状態となる。

【００１５】

図５（Ｂ）で矢印Ａ２で示すように、操作部２２を下に押すような力を加えると、ループ挿通部２５に対応して位置する開口２７ａおよび２７ｂは、貫通される状態となる。

【００１６】

ループ紐１３の取り付けは、図６に示すようにして行われる。すなわち、締付具１２にループ紐１３を取り付ける場合には、図６（Ａ）に示すように、矢印Ａ２で示すように、操作部２２を下に押すような力を加え、開口２７ａおよび２７ｂを貫通した状態とする。

【００１７】

操作部２２を下に押して、開口２７ａ、２７ｂが貫通した状態になったときに、図６（Ｂ）に示すように、操作部２２の開口２７ａ、２７ｂを通過するように、輪状のループ紐１３の一端を挿通させ、ループ紐１３の端を、ループ挿通部２５から引き出す。

【００１８】

この段階で、操作部２２から指を離すと、図６（Ｃ）に示すように、操作部２２がスプリング２４に付勢されて矢印Ａ１方向に動き、ループ紐１３が操作部２２の支持部２３と側壁１８の下端の間に挟まれる。これにより、所定の長さで、ループ紐１３が固定される。

【００１９】

図７は、本考案の一実施形態のネクタイの製作過程を示す図である。図７（Ａ）に示す布帯１５を用意する。図７（Ｂ）に示すように、布帯１５の端を切り落とし、図７（Ｃ）のような形状にする。図７（Ｃ）に示す折れ線Ｘ，Ｙで布帯１５の端を折り曲げて、図７

（Ｄ）に示すような、結び目１６を形成する。図７（Ｅ）は、図７（Ｄ）を裏から見た図である。このようにして製作された結び目１６と、別に製作した大剣１４の末端を図７（Ｆ）のように接合させて、接合部を縫い合わせて、図７（Ｇ）のようなネクタイ本体１１が完成する。なお、上記説明においては、図７（Ｂ）に示す布帯１５の輪郭を切り落とすように記述したが、布帯１５の輪郭は切り取らないで折り曲げても良い。

【００２０】

図８、図９は、本考案の一実施形態のネクタイの製作過程を示す図である。図８（Ａ）、図８（Ｂ）は、上述したように、締付具１２にループ紐１３を取り付ける過程を示す。図８（Ａ）でループ紐１３の先端を締付具１２に挿入し、その後ループ紐１３を引き抜くことによって、図８（Ｂ）に示すように、締付具１２中に一部が挿入されたループ紐１３が得られる。

【００２１】

図８（Ｃ）において、図７の過程によって製作されたネクタイ本体１１の結び目１６の部分に締付具１２を挿入する。その後、図９（Ｄ）に示すように、ネクタイ本体１１の結び目１６から、ループ紐１３の先端を引き出す。

【００２２】

次に、図９（Ｅ）に示すように、ネクタイ本体１１の大剣１４の先端部分を結び目１６内に挿入する。さらに、図９（Ｆ）に示すように、ネクタイ本体１１の大剣１４を結び目１６から引き抜くことによって、図９（Ｇ）に示したようなネクタイ１が完成する。

【００２３】

図１０は、本考案の一実施形態のネクタイ１の使用方法を示すものである。前述したように、締付具１２の操作部２２を押すと、ループ紐１３が緩むので、ループ紐１３の長さを変えることができる。図１０（Ａ）に示すように、ネクタイ本体１１の結び目１６の上から、締付具１２の操作部２２を押して、ループ紐１３をゆるめて、ループ紐１３の長さを使用者の首を通せる長さに調整する。

【００２４】

次に、図１０（Ｂ）に示すように、使用者はループ紐１３を首に通し、襟元に巻き付ける。そして、図１０（Ｃ）に示すように、ネクタイ本体１１の結び目１６の上から、締付具１２の操作部２２を押しながら、ループ紐１３を矢印の方向に引っ張ってループ紐１３の長さを調整する。ループ紐１３の長さを調整できたら、締付具１２の操作部２２から指を離す。締付具１２の操作部２２から指を離すと、その位置でループ紐１３は締め付けられ、ネクタイ１の結び目１６は固定される。

【００２５】

以上説明したように、本考案の一実施形態のネクタイ１では、ループ紐１３を首に通し、それを襟元に巻き付け、ネクタイ本体１１の結び目１６の上から、締付具１２の操作部２２を押しながら、ループ紐１３の長さを調整するだけで、ネクタイ１を簡単に着脱できる。また、本考案の一実施形態のネクタイ１では、締付具１２の上に、ネクタイ１の結び目１６が位置しているので、結び目が自然な形をしている。また、本考案の一実施形態では、締付具１２の操作部２２を押しながら、ループ紐１３を引っ張って長さを調整し、締付具１２の操作部２２から指を離せば、その位置でループ紐１３が締め付けられ、結び目１６が固定される。このため、ネクタイが襟元で十分に締め付けられ、ネクタイの付け方がだらしなくならない。また、締付具１２により結び目１６の部分の形が固定されるため、結び目の形状が崩れ難い。また、ループ紐１３を襟元に巻き付けてネクタイ１を付けるため、ネクタイ１の大剣１４の部分は、自然に垂れ下がり、その動きが自然である。

【００２６】

本考案は、上述した一実施形態に限定されるものではなく、この考案の要旨を逸脱しない範囲内で様々な変形や応用が可能である。

【産業上の利用可能性】

【００２７】

本考案は、ワイシャツの襟元を飾り、簡単に着脱できるネクタイとして利用することが

できる。

【図面の簡単な説明】

【００２８】

【図１】本考案の一実施形態のネクタイの構成を示す正面図および背面図である。

【図２】本考案の一実施形態のネクタイにおける締付具を示す図である。

【図３】本考案の一実施形態のネクタイにおける締付具の筐体を示す図である。

【図４】本考案の一実施形態のネクタイにおける締付具の操作部を示す図である。

【図５】本考案の一実施形態のネクタイにおける締付具の操作部の動作を示す図である。

【図６】本考案の一実施形態のネクタイにおいて締付具にループ紐を取り付けるときの説明図である。

【図７】本考案の一実施形態のネクタイの製作過程を示す図である。

【図８】本考案の一実施形態のネクタイにおいてループ紐を結び目に挿入して本考案のネクタイを完成させる過程を示す図である。

【図９】本考案の一実施形態のネクタイにおいてループ紐を結び目に挿入して本考案のネクタイを完成させる過程を示す図である。

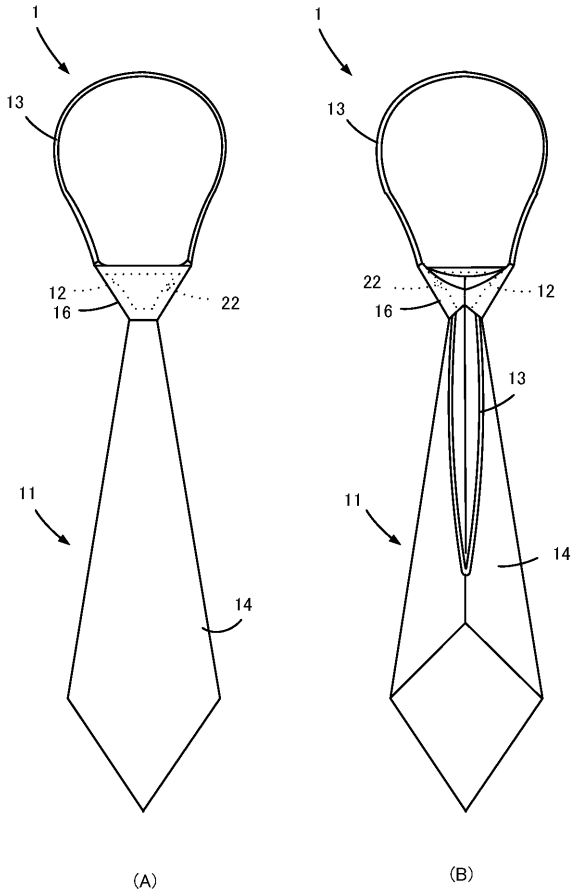
【図１０】本考案の一実施形態のネクタイを着脱するときの説明図である。

【符号の説明】

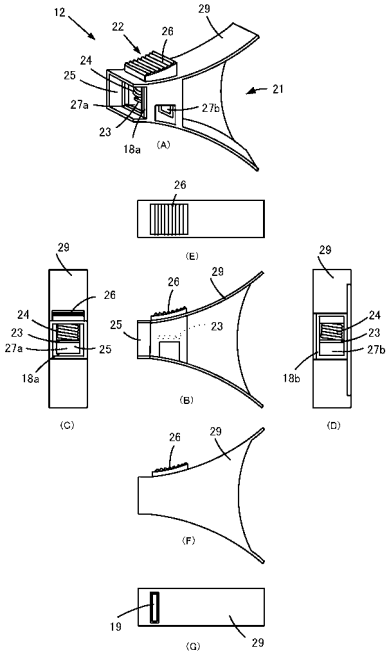
【００２９】

１　ネクタイ
１１　ネクタイ本体
１２　締付具
１３　ループ紐
１４　大剣
１５　布帯
１６　結び目
１７　天井
１８　側壁
１９　開口
２１　筐体
２２　操作部
２３　支持部
２４　スプリング
２５　ループ挿通部
２６　押圧部
２７，２７ａ，２７ｂ　開口
２８　突起部
２９　側板
３０　開口

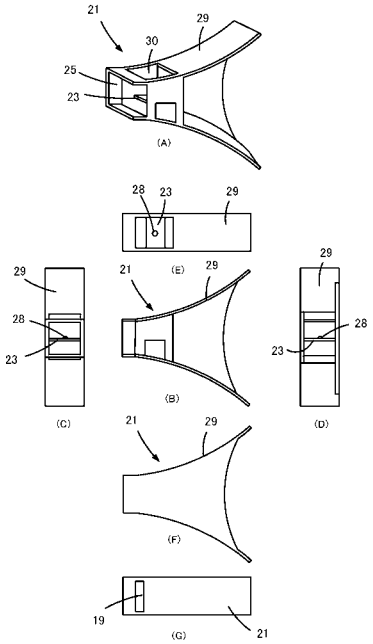
【図１】


1
13
12
16
22
11
14
(A)
1
13
22
12
16
13
11
14
(B)

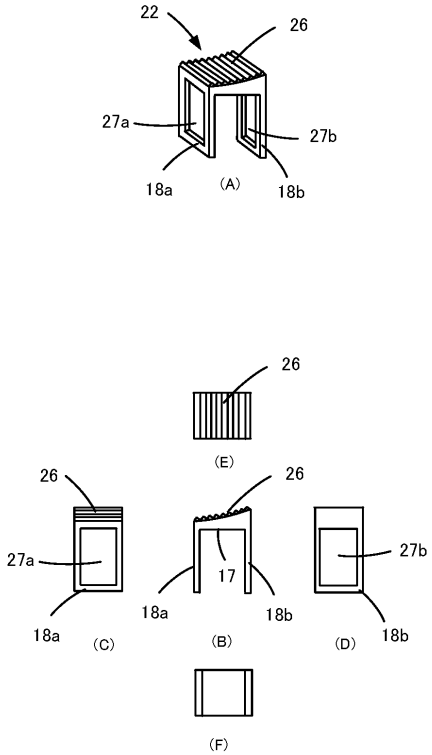
【図２】


12
22
26
29
24
25
27a
27b
21
23
18a
(A)
26
(E)
29
24
23
27a
25
18a
(C)
26
29
23
25
(B)
29
24
23
27b
18b
(D)
26
29
(F)
19
29
(G)

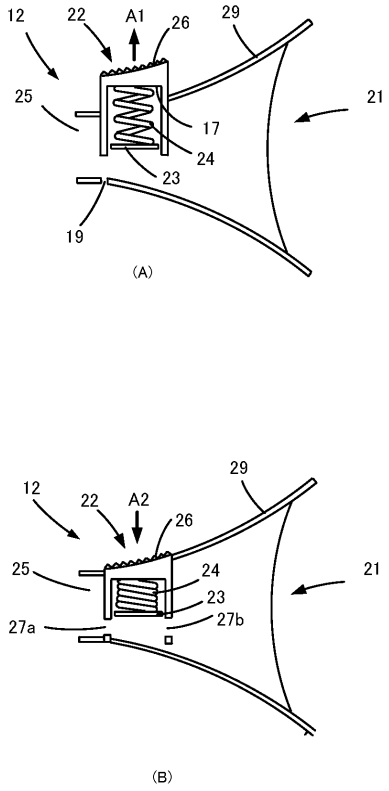
【図３】


21
29
30
25
23
(A)
28
23
29
(E)
29
28
23
(C)
21
29
(B)
29
28
23
(D)
21
29
(F)
19
21
(G)

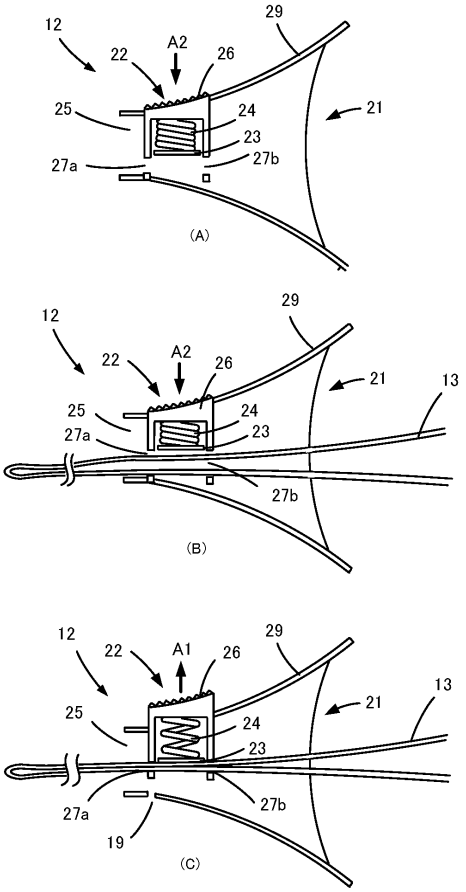
【図４】


22
26
27a
27b
18a
(A)
18b
26
(E)
26
27a
18a
(C)
26
17
18a
18b
(B)
27b
18b
(D)
(F)

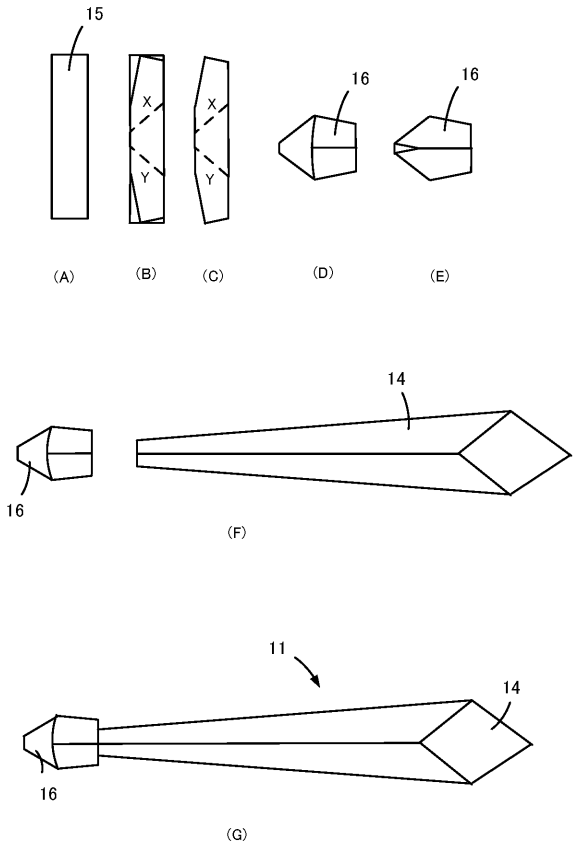
【図５】


12
22
A1
26
29
25
21
17
24
23
19
(A)
12
22
A2
26
29
25
24
21
23
27a
27b
(B)

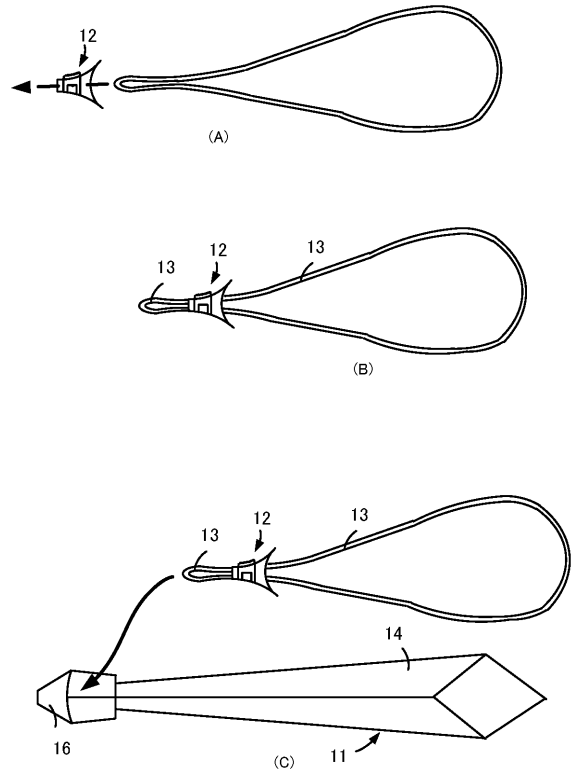
【図６】


12
22
A2
26
29
25
24
21
23
27a
27b
(A)
12
22
A2
26
29
21
13
25
24
27a
23
27b
(B)
12
22
A1
26
29
21
13
25
24
23
27a
27b
19
(C)

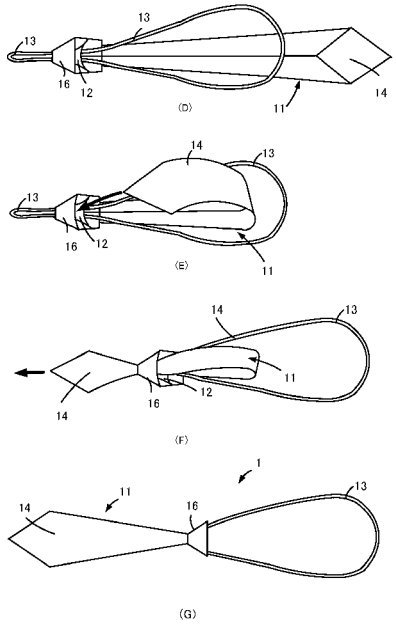
【図７】


15
X
Y
X
Y
16
16
(A)
(B)
(C)
(D)
(E)
14
16
(F)
11
14
16
(G)

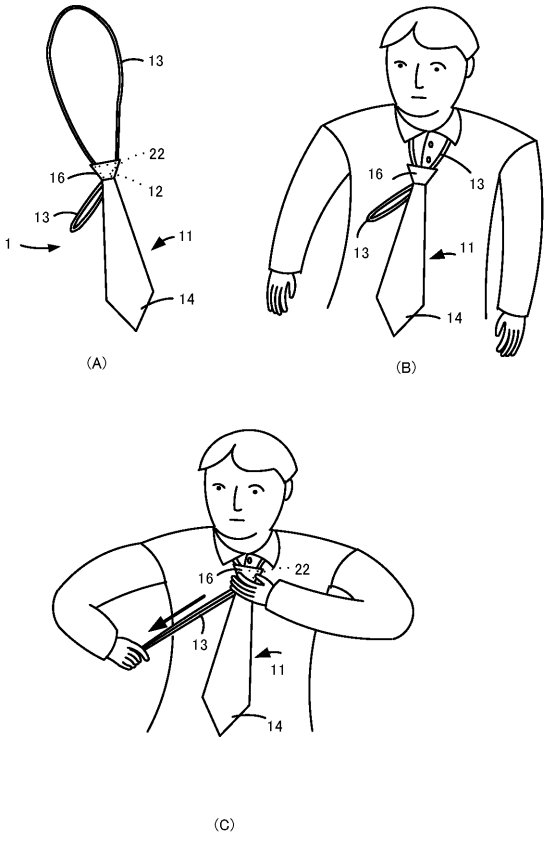
【図８】


12
(A)
13
12
13
(B)
13
12
13
14
16
11
(C)

【図９】


13
13
16
12
14
11
(D)
14
13
13
16
12
11
(E)
14
13
11
14
16
12
(F)
1
11
13
14
16
(G)

【図１０】


13
22
16
12
13
1
11
14
(A)
16
13
13
11
14
(B)
16
22
13
11
14
(C)